

データ仮想化スイートに関する FAQ：スタジオマネージャの [Requests] パネルでは、要求がどのくらいの期間保持されますか。

目次

[概要](#)

[スタジオマネージャの \[Requests\] パネルで要求が保持される期間はどのくらいですか。](#)

概要

このドキュメントでは、Cisco Studio Manager の [Request] パネルで要求が消去される時点を決する Cisco Information Server (CIS) の構成時の設定について説明します。

スタジオマネージャの [Requests] パネルでは、要求がどのくらいの期間保持されますか。

これらの設定値を確認するには、[Administration] > [Configuration] > [Server] > [Runtime Processing Information] を選択します。

- [Maximum Requests Tracked]：追跡する要求の最大数 (例：10000)。この値を変更しても、次のサーバの再起動までは有効になりません。
- [Request Purge Period]：消去期間を経過した完了済み要求をサーバで消去する頻度を制御します (例：5 分)。
- [Maximum Sessions Tracked]：同時セッションの最大数 (例：10000)。「制限なし」にするには、「0」を使用します。
- [Session Purge Period]：消去期間を経過したクローズ セッションをサーバで消去する頻度を制御します (例：5 分)。

例として示されている数値を使用した設定は次のようになります。

- 消去期間 (5 分間) の経過後には、完了した時点からの経過時間が 5 分を超えているすべての完了済み要求と、クローズした時点からの経過時間が 5 分を超えているすべてのクローズセッションが消去されます。
- Studio Manager の [Requests] パネルに完了済み要求が表示されない場合、通常は、[Request Purge Period] 期間の経過後に消去されている可能性があります。

これらの設定値を大きくすると、悪影響が生じる可能性があります。たとえば [Request Purge Period] が 1 週間に設定され、[Maximum Requests Tracked] が 100000 に設定されているとします。CIS プロセスのメモリフットプリントが大きくなりすぎるかどうかを確認するため、これをテストする必要があります。これらの要求オブジェクトはメモリに維持され、1 週間にわたって蓄積されます。CIS のメモリに維持される要求オブジェクトの数は、毎週の消去実行後でも 100,000 であるため、この要求オブジェクトの数が 100,000 を大幅に超える可能性があります。

[Request Purge Period] は消去操作の間隔です。 [Maximum Requests Tracked] は、要求リストの消去時に保存され、 [Least Recently Used (LRU)] リストに含まれる要求の数です。 CIS のメモリには、要求が消去されるまで 100,000 を大幅に超える数の要求が維持されていることがあります。これが原因で、消去間隔の経過前に CIS でメモリ不足が発生することがあります。この負荷に対応するために大量のメモリと多数の小さな要求が必要となる場合は、CIS がメモリ不足にならないことを検証するため、テストを行う必要があります。要求オブジェクトはソフト参照として維持されるため、必要に応じてガベージコレクションが開始され、要求オブジェクトが収集されますが、CIS メモリ グラフは常に最大値に近い値にとどまる可能性があります。処理する要求の数が急増したために CIS で大量のメモリが急に必要となった場合、CIS は Out of Memory エラーを受け取る可能性があります。

適切な解決策は、Request テーブル (公開されている /services/databases/system/sys_requests システム テーブル) を照会し、要求を特定のテーブルに維持し、代わりにそのテーブルを照会する方法です。